



アドビシステムズ株式会社が 企業向け XML オーサリングパブリッシング ソリューションの新バージョン 「Adobe FrameMaker 7.1 日本語版」を発表

XML 機能をさらに強化し、大規模で複雑な構造の文書作成に柔軟に対応
広範なドキュメントおよびグラフィックフォーマットのサポートにより、
既存資産を有効活用

【2004年3月11日】

アドビシステムズ株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：石井 幹）は本日、企業向け XML オーサリングパブリッシングソリューション「Adobe® FrameMaker®（アドビフレームメーカー）」の新バージョン「Adobe FrameMaker 7.1 日本語版」（Windows® 版および UNIX® 版）を発表しました。同製品では、操作性の高いワードプロセッシング環境と XML (Extensible Markup Language) の機能が統合されており、紙、Adobe PDF (Portable Document Format)、および Web へのマルチチャンネルパブリッシングやコンテンツの再利用を簡単に行うことができます。

FrameMaker 7.1 では、部分的に記述の異なるドキュメントをひとつのファイルとして保存したり、複数のドキュメント間で相互参照することが FrameMaker 形式ドキュメント内だけでなく、XML ドキュメントでも実現できるようになりました。また、Adobe PageMaker® (Version 6.5 - 7.0) や QuarkXPress (Version 3.3 - 4.1) で作成したテクニカルドキュメントのデータを再利用したり、Adobe Photoshop® ファイルを直接 FrameMaker に取り込み、効率的に文書を制作することができます。

Adobe FrameMaker は、アドビストア (<http://store.adobe.co.jp/>) および全国のアドビ製品取り扱い企業を通じて販売されます。アドビストアでは本日より予約受付を開始します。製品の発売は 2004 年 4 月上旬を予定しています。

Adobe FrameMaker 7.1 日本語版の主な機能

拡張された XML 読み込みと書き出し機能

FrameMaker 7.1 は XML 機能を強化しており、コンディショナルテキストをサポートしました。これにより、ほとんどの内容は同じであるが、販売地域や条件によって変更しなければならない電力の周波数や保証および顧客サービスの内容など、記述がわずかに異なるためにファイルを分けなければならなかったドキュメントの作成が大幅に簡素化されます。

FrameMaker 7.1 では、外部相互参照を XML ドキュメント上でサポートしました。これにより、XML ドキュメント間でハイパーリンクを設定することができます。例えば、XML で作成された製品のインストールガイドから、同じく XML フォーマットで作成されたユーザマニュアルの特定のセクションを参照したり、ダイレクトリンクを張ったりすることができます。さらに、ユーザからの声を反映させて新たに搭載された XML の自動保存機能を設定しておけば、編集した XML ドキュメントは XML で保存されます。従って、XML ドキュ

メントの編集集中に「別名で保存」で XML 形式を選択する必要がなくなりました。つまり、XML の編集集中は常に XML の環境で作業ができる訳です。

empolis 社の CTO（最高技術責任者）である Stefan Wess（ステファン ウェス）氏は、「FrameMaker は XML など業界標準技術をサポートしており、IT 分野におけるアドビのリーダーシップを証明しています。構造化されたコンテンツを複数のドキュメントや配信プラットフォームで簡単かつ迅速に管理、再利用できるよう、FrameMaker と当社のコンテンツライフサイクル管理システムである sigmalink を統合しました。これにより、例えば、ユーザマニュアルやトレーニングマニュアルを Web と紙の両方に出力することが可能となり、構造化された情報に対する投資を短期間で回収することができます」と述べています。

その他の強化機能

新しいフィルター機能により、PageMaker ファイルや QuarkXPress ファイルを FrameMaker に簡単に移行することができます。また、これらのフォーマットで作成されたファイルを、FrameMaker の強力な長文ドキュメント処理機能とマルチチャネルサポート機能を活用し、紙、Adobe PDF、HTML、XML などに直接出力できます。

企業のドキュメント担当者は、Photoshop ファイルを取り込む際に、一旦中間ファイルを作成することなく直接 FrameMaker 7.1 に取り込み、効率的に作業を行うことができます。さらに、JPEG 2000 グラフィックフォーマットのサポートや、FrameMaker 7.1 UNIX 版では新たに Adobe PDF ファイルの最新バージョンに対応しています。また、SVG (Scalable Vector Graphics) のサポートが強化されたことにより、単一のグラフィックファイルを、高品質なベクトルグラフィックとして紙や PDF で使用したり、あるいは Web 上でインタラクティブに使用することができます。

Adobe FrameMaker 7.1 日本語版の詳細は以下の URL をご覧ください。
<http://www.adobe.co.jp/products/framemaker/main.html>

Adobe FrameMaker 7.1 日本語版 アドビストア提供価格（消費税、送料別）

	通常版	アップグレード版	アカデミック版
Windows 版	110,000 円	25,800 円	32,000 円
UNIX Personal (Solaris) 版	182,000 円	38,900 円	53,000 円
UNIX Shared (Solaris) 版	272,000 円	44,100 円	無し

* サーバ版の Adobe FrameMaker Server 7.1 (Windows 版/UNIX 版)は英語版のみでの販売(通常版 1,169,900 円、アップグレード版 584,900 円)になります。詳細は以下の URL をご覧ください。

<http://www.adobe.com/products/fmserver/main.html>

* アップグレード価格の適応対象は、FrameMaker 日本語版登録ユーザとなります。

* Mac 版に 7.1 はありません。

* Unix 版は Solaris 対応のみで、HP-UX、AIX には対応していません。

アドビ システムズ社について

アドビ システムズ社は、人々のそして企業間のコミュニケーションをより豊かにするために、業界をリードするデジタルイメージング、デザインならびにドキュメント技術のプラットフォームを、一般ユーザ、法人ユーザおよびクリエイティブプロフェッショナル向けに提供しています。アドビ システムズ社の 2003 年度の売上は 10 億米ドル超でした。アドビ システムズ 株式会社はその日本法人です。詳細な情報は、Web サイト <http://www.adobe.co.jp/> でご覧いただけます。